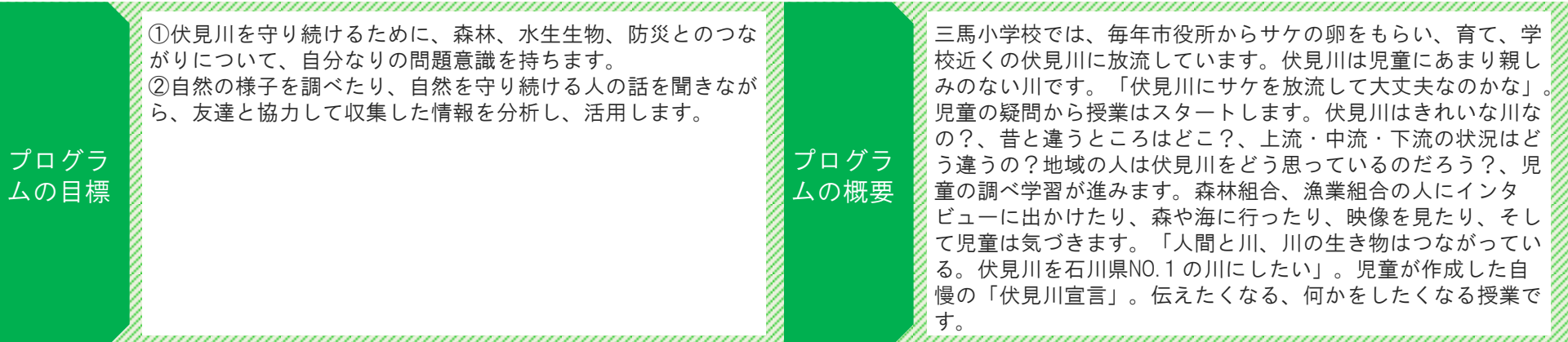
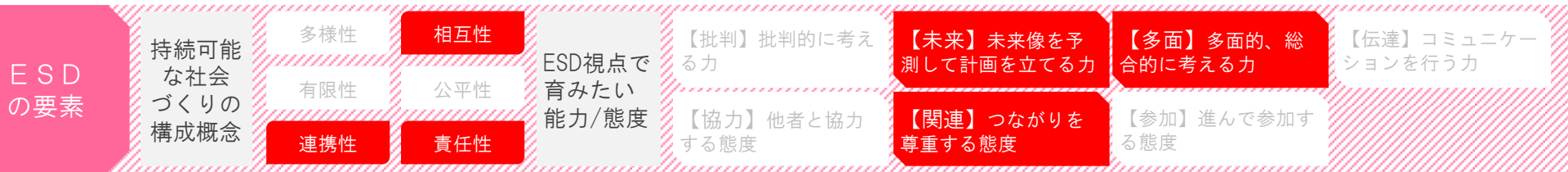


つながりに気づく、つながりを築く ～ふるさと伏見川を守り続けるためには～

小学校低学年 小学校高学年
小学校中学年 中学校



学習指導要領との関連

学年	小学校5年	小学校5年
教科/領域	社会	理科
学習内容	<p>内容(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。</p> <p>エ 国土の保全などのために森林資源の働き及び自然災害防止</p>	<p>B(3) 流水の働き</p> <p>地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係について考えをもつことができるようにする。</p> <p>ウ 雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場面があること。</p>

つながりに気づく、つながりを築く ～ふるさと伏見川を守り続けるためには～

持続可能な社会の
構成概念



上流、中流、下流はつながり、川に支えられて人間の暮らしが成り立っていることに気づき、自然を大切にすることを育む。



地域の環境について学び、自分にできることを考え、より良い環境を生み出すための行動意欲、態度を育む。



地域の環境団体で活動する人や行政職員等多くの主体と、地域とともに伏見川を守り続けるための行動を見いだす。



伏見川を守り続けるために、色々な人の思いや考えを聞き、未来にはどうあるべきかを考え、提案する。



防災のための工事（開発）と生き物のすみかとしての保全など、川を取り巻く状況を多面的な視点で捉える。



森林、水生生物、防災などのつながりに気づき、伏見川を守り続けるために大切なことを学習する。

ESDで育みたい
能力／
態度

プログラム（単元・題材）の展開の流れ

総時間

12時間

1

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

伏見川は「サケの放流」ができるくらいきれいな川なのか

1時間目

「サケの放流」について知る。
「伏見川はサケが住めるくらいきれいな川なのか」考える。
伏見川の観察

三馬小5年生が長年取り組む「サケの放流」に、興味を持たせる。
伏見川がきれいかどうかをこれまでの経験・体験を基に考える。自分の立場をはっきりさせ、クラスで意見を共有する。川がきれいなのか疑問を持ち、行って、調べる意欲を育む。
水質を調べる方法を考えさせる。
〔付箋・模造紙〕

批判

未来

多面

伝達

協力

関連

参加

	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕		
2時間目	<p>川の水質調査 川の上流・下流のつながりを知る</p> <p>川の水質を調べるため、水生生物調査、パックテストを行う。 ・川の上流・下流のつながりを知る。 調査結果から、「本当にサケを放流しても良いか」話し合う。</p>	<p>川にいる水生生物は上流・下流へとつながりながら生きていることに気づかせる。川周辺の環境にも着目させ、ごみがたくさん落ちていることに気づかせ、川と人との関わりについても考えさせる。 ごみが川に与える影響を調べるため、お菓子を水に入れ、パックテストで数値を調べ、把握させる。 調査結果を友達と協力しながら整理し、水質を分析する。課題に対して自分の考えを持ち、クラスで共有する。 「本当にサケを放流しても良いか」疑問を持たせる。 〔パックテスト、水生生物指標〕</p>	<p>批判</p> <p>未来</p> <p>多面</p> <p>伝達</p> <p>協力</p> <p>関連</p> <p>参加</p>	
3時間目	<p>「サケを放流しても良いか」を明らかにする</p> <p>・市役所の方に、質問する ・伏見川の昔の様子や地域の人が川を守り続けてきたことについて知る。</p>	<p>●ゲストティーチャー：金沢市役所職員、学校長 疑問を明らかにするために、サケ放流事業を行う金沢市役所の方に質問する。市役所の方に何を質問したら良いかを考えさせる。 水質だけではなく、サケについて、サケ放流事業を通じて児童に伝えたい思いを話してもらおう。 人と川のつながり、地域の人が川を守り続けてきたことを話し、「ふるさとの伏見川を守ろう」という思いを持つ。 〔ワークシート〕</p>	<p>批判</p> <p>未来</p> <p>多面</p> <p>伝達</p> <p>協力</p> <p>関連</p> <p>参加</p>	
4時間目	<p>ふりかえり 「ふるさと伏見川を守り続けるために何ができるか」考える</p> <p>伏見川をどのような川にしていきたいか、守り続けるためにできることを話し合う。</p>	<p>学習をふりかえることにより、上流・下流とのつながりに気づかせ、伏見川がどんな川であってほしいかイメージを持つ。 地域の人がどのように伏見川を守ってきたのか、知りたいという意欲を持つ。 伏見川を守り続けるために、何をしたら良いかを考え、調べたい課題を設定する。 〔ワークシート〕</p>	<p>批判</p> <p>未来</p> <p>多面</p> <p>伝達</p> <p>協力</p> <p>関連</p> <p>参加</p>	

	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕	批判	未来
5時間目	<p>森林見学 上流、森林と伏見川のつながりを調べる</p> <p>森林の状況調査。 森と川のつながりを考える。</p>	<p>●ゲストティーチャー：森林組合 観察する観点を明確にするために、事前に調べることをワークシートに記入する。 森には川をきれいにする働きがあるなど、森の機能について教えてもらう。 身の回りの紙などの製品が木で作られていることに気づかせ、森林と生活のつながりを身近に引き寄せて考えられるようにする。森と川のつながりについて、自分の考えを持たせる。 〔ワークシート〕</p>	<p>多面</p> <p>協力</p> <p>参加</p>	<p>伝達</p> <p>関連</p>
6時間目	<p>伏見川と地域の人々のつながりを調べる</p> <p>地域の人々がこれまで、伏見川をどのように守ってきたのかを調べる。 三馬公民館の人に聞く。</p>	<p>●ゲストティーチャー：三馬公民館職員 昔の伏見川の水質や見られた生き物、様子について聞く。 また、洪水などの災害や、人々を守るための護岸工事が行われたことについてもお話いただき、自然の変化について気づかせる。 地域の人々の思いを聞き、自分達は伏見川がどんな川であってほしいのかを考える。 〔ワークシート〕</p>	<p>多面</p> <p>協力</p> <p>参加</p>	<p>伝達</p> <p>関連</p>
7時間目	<p>「伏見川を守り続けるために何ができるのか」を考える</p> <p>伏見川を守り続けるために何ができるのかを考える。 「伏見川宣言」をつくる。</p>	<p>これまでの学習をふりかえり、伏見川を大切にしたいという思いを高め、守り続けるために自分達ができることを考えることで、行動につなげる。 「伏見川宣言」を作り、地域の人に伝えたいという思いを育む。 〔ワークシート、模造紙〕</p>	<p>協力</p> <p>参加</p>	<p>伝達</p> <p>関連</p>

	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕		
8時間目	地域の人々の伏見川に対する思いを知る		批判	未来
	「伏見川宣言」を発表する。 地域の人々の思いを知る。	児童が考え、作成した「伏見川宣言」を読み、意識させる。 地域の人に宣言が受け止めてもらえるかを、上流・中流・下流で活動に取り組む人の映像で思いを聞き、上・中・下流がどんな場所であったかをふりかえりつつ、考える。 〔伏見川宣言、映像〕 ※映像教材①：伏見川と森のつながり ※映像教材②：伏見川の魚と金沢の人たちの暮らし ※映像教材③：伏見川の昔と今	多面	伝達
9時間目	話し合い「伏見川を石川No.1の川にするには」		批判	未来
	「伏見川を石川No.1の川にするには、『自然を守る』、『防災を進める』のどちらが大切か」について話し合う。	前時を踏まえ、自分の考えを持ち、発表する。 他の児童の考えを聞き、様々な意見があることに気づき、いろいろな視点で再考する。 視野を広げるため、校区の洪水マップを提示する。 「伏見川宣言」をふりかえる場面をつくる。 〔洪水マップ〕	多面	伝達
10・11時間目	発表会準備		批判	未来
	学習をふりかえり、まとめる。 発表方法を考える。	どのように地域の人に伝えるのか、考える。 伝え方を工夫する。 〔模造紙〕	多面	伝達
			協力	関連
			参加	

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

学習発表会

学習の成果を、保護者、地域の方に伝える。

学んだことを発表する。地域の人と一緒に伏見川宣言について意見交換をする。一緒に取り組んでいきたい思いを伝える。
〔模造紙〕

批判

未来

多面

伝達

協力

関連

参加

12時間目

地域プログラム化メンバー、実証協力校等

地域プログラム化メンバー

- ・金沢大学環境保全センター
- ・金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山少年自然の家
- ・金沢市立三馬小学校
- ・金沢市立十一屋小学校
- ・金沢エコライフくらぶ
- ・石川県環境部
- ・環境省中部環境パートナーシップオフィス
- ・株式会社TREE
- ・特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ

実証協力校

実証校：金沢市立三馬小学校